

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	206人	社会	210人	数学	208人
	理科	212人	英語	208人		

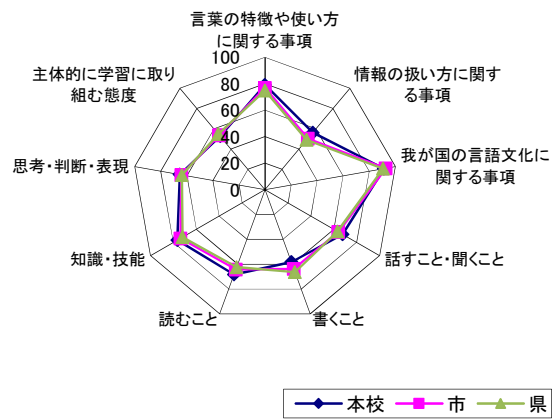
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.3	76.9	74.9
	情報の扱い方にに関する事項	56.3	50.3	49.2
	我が国の言語文化にに関する事項	91.3	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	67.8	64.2	63.4
	書くこと	58.3	63.7	66.4
	読むこと	68.3	64.2	62.5
観点	知識・技能	76.5	73.7	71.9
	思考・判断・表現	65.6	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	52.7	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

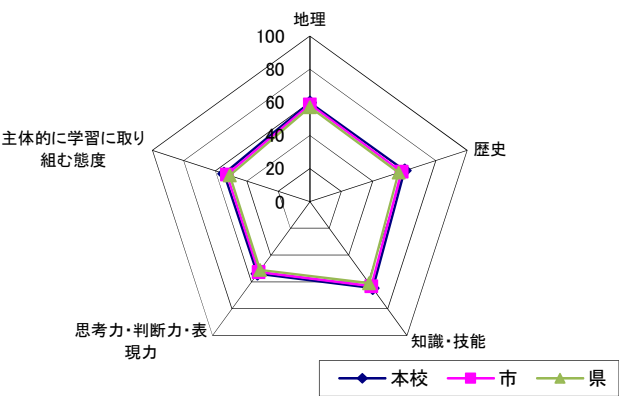
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字の読み書きについては、2.2ポイント上回っている。普段からの漢字練習にもっと取り組ませたい。 ○文法に関しては市平均と同等。故事成語については5.2ポイント上回っている。	・文法事項については今後も適宜復習し、定着に努める。 ・漢字の読み書きについては定期的な小テストを通して定着に努める。間違えやすい漢字についてはその都度指導を重ねていく。
情報の扱い方にに関する事項	○市平均より6ポイント上回っており、情報同士の関連性を考えながら必要な情報の取捨選択ができている。	・どのような点に注意して情報を扱っていけばよいか、今後も継続的に指導していく。複数の情報からどのようなことが読み取れるか、どんなことが言えるかについても指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	●市平均と比較し、1.3ポイント下回っている。歴史的仮名遣いの理解が不十分というよりは、古文全般に関して苦手意識を抱えていたり、理解が不十分だということも考えられる。	・歴史的仮名遣いだけではなく、古文の内容についても理解を深めさせるよう、継続して指導を行う。古文全般については苦手意識が強いので、教科書だけに限らず他の古文も紹介することで、生徒の意欲喚起につなげたい。
話すこと・聞くこと	○大きく見て市平均よりも3.6ポイント上回っている。細かい点では「話の構成を考えること」については県平均より6.5ポイント、「自分の考えを明確に話すこと」については5.8ポイント上回っている。自分の考えを「話す」と「書く」ことの差が大きいため、書くことにつなげる指導を今後要する。	・複数の情報の関連性を考えさせながら聞き取らせる。 ・話す際には話の順番も含めて構成を考えさせる。話す内容を客観的に見直すことで、自分がどの点に注意して話を組み立てていたかについても考えさせる。
書くこと	●市平均よりも5.4ポイント下回っている。その中で「指定字数で書くこと」については県平均より9.7ポイント下回っている。「条件に即して書くこと」についても8.8ポイント下回っている。普段の授業から意図的に「書く」場面を設けつつ、様々な条件を付け加え、どのように書くことが望ましいかを指導していく必要がある。	・何をどう書けばよいか、という点について今後授業で指導していく必要がある。ただ書くのではなく、条件に対応させながら記述させていく。
読むこと	○全体として、市平均を4.1ポイント上回っている。その中で説明的文章において、「叙述を基に読み取ること」については県平均よりも8.9ポイント、文学的文章の読み取りで「自分の考えを確かめること」については8.9ポイント上回っている。	・文章の読み取りはできているので、読み取ったことを条件に合うように表現することにつなげていく。そうすることで書くことの底上げにつなげていく。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	59.8	58.7	57.0
	歴史	60.3	58.3	56.4
観点	知識・技能	64.7	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	53.9	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	54.4	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

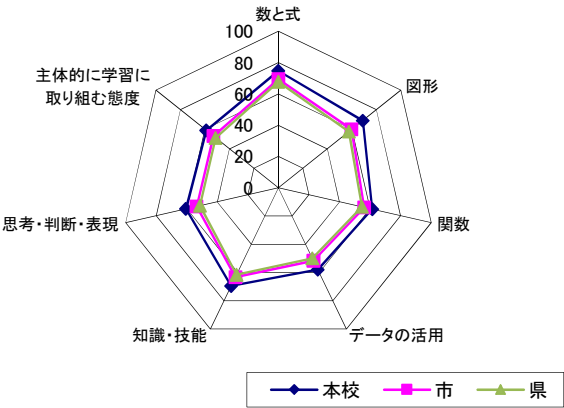
○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○ 正答率は、市平均を1.1ポイント、県平均を2.8ポイント上回っている。また、世界の姿、世界各地の人々の生活と環境の正答率はすべての設問で県の平均を上回っていた。 ●世界の諸地域の「アジアでの農業生産について、資料をもとに考察している」という設問では、県の平均を6.4ポイント下回る結果になった。資料の読み取りの力をつける必要がある。	・教科書や資料集、ICT教材を使用し、世界の様子を視覚的に捉えさせるなど工夫して資料を読み取る力を身につけさせる。 ・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。 ・授業において、複数の資料を比較する学習や資料から読み取れることを説明する学習を重点的に行う。その際、説明する力を身につけられるよう説明する手順や言葉の使い方などを段階的に指導していく。
歴史	○ 正答率は、市平均を2ポイント、県平均を3.9ポイント上回っている。特に飛鳥時代～平安時代の正答率の県平均と校内平均を比較すると、すべての項目で県の平均を5ポイント以上上回る結果になった。また、他の領域も全体的に県の平均を上回っているものが多い。 ●中世の日本の「勘合貿易について理解している」という設問では県の平均を7.8ポイント下回っている。	・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図る。 ・授業において、基礎的・基本的な事項に関する小テストを実施するなど繰り返し学習を行い用語の定着を図る。 ・ICTの活用や複数の資料を比較する学習や資料から読み取れることを説明する学習を重点的に行う。その際、説明する力を身につけられるよう説明する手順や言葉の使い方などを段階的に指導していく。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	74.6	69.3	67.7
	図形	68.9	59.8	57.7
	関数	61.4	56.2	54.7
	データの活用	57.9	51.6	49.9
観点	知識・技能	69.5	63.2	61.5
	思考・判断・表現	60.5	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	58.7	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

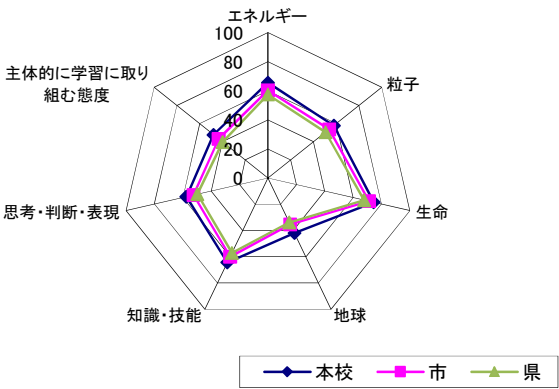
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○ 正答率は、市平均を5.3ポイント、県平均を6.9ポイント上回っている。 ● 負の数や減法の正答率が県平均ほどであった。また、数量の間の関係を不等式に表す設問では、半分の生徒が誤答を選んでいる。	・負の数や減法の計算では、符号が変わる過程が分かるように板書を工夫する。 ・数量を文字を使って表すときは、具体的な数を用いて、どんな四則計算をしているか考えさせる。さらに、関係を不等式で表すときは、大小や「＝」について、丁寧に確認する。
図形	○ 正答率は、市平均を9.1ポイント、県平均を11.2ポイント上回っている。 ● すべての設問で市平均・県平均を上回っているが、作図の設問は、図形の領域の中で最も正答率が低い。また、おうぎ形の面積や球の表面積を求めるような設問についても正答率は低い。	・デジタル教科書などを用いて、作図の過程を分かりやすくする必要がある。また、それぞれの作図の特徴についても身に付けさせる。 ・おうぎ形の公式については、円とのつながりを意識させたい。球の公式については円柱とのつながりを意識させる。なぜその公式になるのかを考えさせたい。
関数	○ 正答率は、市平均を5.2ポイント、県平均を6.7ポイント上回っている。 ● 「関数」について理解しているかを問われている設問で正答率が低い。また、正しい関係を示したグラフを選ぶ設問は、半分の生徒が誤答を選んでいる。	・「関数」を理解させるために、「関数でないもの」を例として授業の中で取り上げる。生徒同士で身の回りの関数であるものと関数でないものを考えさせる機会を設けたい。 ・関数領域においては表や式、グラフを関連付けて指導していくように努める。
データの活用	○ 正答率は、市平均を6.3ポイント、県平均を8.0ポイント上回っている。 ● 「階級の度数」について理解しているかを問われている設問で正答率が低い。また、度数折れ線から読み取り、説明する設問でも正答率が低く、34.3%の生徒が無回答だった。	・基本用語の意味と使い方を身に付けさせる。度数分布表やヒストグラムを完成させるときには、データを正確に処理するような指導もしていく。 ・データの特徴を捉え、自分なりの考えをまとめ、説明する機会を設ける。そのため、グループ活動を積極的に行う必要がある。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	65.6	60.3	57.4
	粒子	58.0	53.8	50.7
	生命	74.6	71.2	67.8
	地球	42.0	35.3	33.8
観点	知識・技能	64.3	59.9	57.0
	思考・判断・表現	57.4	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	47.8	43.3	39.8



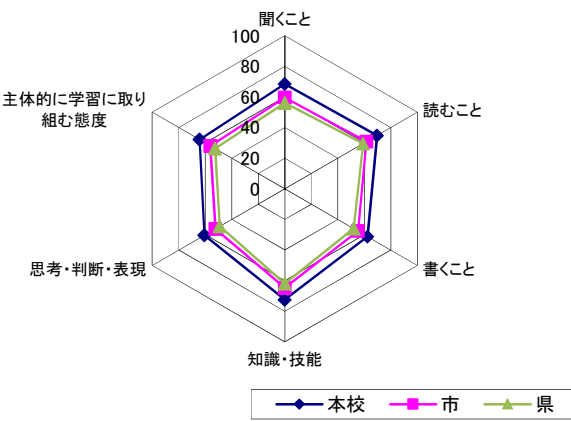
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○正答率は、市平均を5.3ポイント、県平均を8.2ポイント上回っている。特に「おもりにはたらく重力とばねの伸びの関係のグラフ化」に関する正答率は、県平均より、18.5ポイント上回っている。 ●「おもりがばねを引く力」に関する正答率は、40.7%で県平均より3.2ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・多くの生徒は観察・実験の結果を分析し、解釈するための言語活動に意欲的に取り組んでいる。事物・現象に関わる具体的な体験を通して、比較等を行い問題を見いだすなどの問題解決の活動を経て言葉の意味を理解し、科学的な概念を形成する機会を多くつくる。 ・力の大きさとばねの伸びの関係を計算し、グラフ化することはできているが、その事象の理解は不十分である。振り返りの時間をつくることで、科学的な言葉や概念を用いて考えたり、説明したりする活動を増やし、知識の向上を図る。
粒子	○正答率は、市平均を5.3ポイント、県平均を8.2ポイント上回っている。特に「蒸留」に関する正答率は、県平均より、13.1ポイント上回っている。 ●「質量パーセント濃度を求める式」で、県平均より上回っているものの、正答率は22.4%と低い。	・実験を通して実験器具の操作方法、注意事項を正しく習得させる。 ・物質は粒子でできているという粒子概念を持たせられるよう、具体例をICT機器を用いて視覚的に伝えるなど、印象に残り定着するような工夫をする。 ・質量パーセント濃度は溶質の質量が溶液の質量のうち何パーセントを占めるのかという「割合」の考え方である点を強調しながら説明し、練習問題に繰り返し取り組ませることで基礎基本の定着を図る。
生命	○正答率は、市平均を3.4ポイント、県平均を6.8ポイント上回っている。特に「双子葉類と単子葉類の分類」に関する正答率は、県平均より、9.5ポイント上回っている。 ●「無セキツイ動物の分類」で、県平均より上回っているものの、正答率は40.7%と低い。	・重要語句や基礎・基本的な内容などの既習事項から考えを深める活動を多く取り入れる。 ・身近な植物や動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりの理解の定着を図る。また、その共通点や相違点に基づいて植物や動物が分類できることを見いだす授業を展開することで、より理解が深まるように工夫していく。
地球	○正答率は、市平均を6.7ポイント、県平均を8.2ポイント上回っている。特に「火山灰の鉱物の割合から火山の特徴の指摘」に関する正答率は、県平均より、18.6ポイント上回っている。 ●「柱状図による考察」で、県平均より上回っているものの、正答率は12.6%と低い。	・地層の重なり方、広がり方についての規則性を見いだして理解させるために、映像や資料を用いて離れた地点の幾つかの地層や剥離標本を比較する等問題を見だし、火山灰層や砂層などを手掛かりに解決させる授業を展開していく。 ・火山活動による恩恵や火山災害、地震災害をICT機器等を用いて調べさせ、興味・関心を高める。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	68.5	59.6	56.1
	読むこと	69.6	61.6	59.1
	書くこと	62.4	55.2	51.9
観点	知識・技能	72.4	64.7	61.9
	思考・判断・表現	60.7	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	64.2	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○正答率は県平均を12.4ポイント、市平均を8.9ポイント上回っている。特に「英文の要点を聞き取る。」に関する設問の正答率は県平均を大きく上回っている。 ●「英文の概要を聞き取る。」の正答率が、県平均と同レベル程度である。	・授業内での教師の英語使用量を増やす。なるべく英語にふれる時間を多くすることで、テストにおいても抵抗なく取り組めるようにする。 ・ALTとの授業を効果的に行う。例えば、スピーキングテストや対話活動など。 ・単語単位で文を理解するのではなく、全体でどのような内容を言っているのかなど理解できるようにする。また、リスニングテストにおけるポイントなども伝え、正確に回答できるようにする。
読むこと	○正答率は県平均を10.5ポイント、市平均を8.0ポイント上回っている。特に長文の読み取りで、「代名詞の内容の把握」や「読み取った内容をふまえて対話文を完成させる」に関する設問の正答率が高い。 ●「対話文の情報を正しく読み取る」や「チラシを見て内容を把握する」の正答率が県平均と同じレベル程度である。	・教科書の音読練習を大切にする。それによって、重要単語や表現の使い方を自然と身に付けることができ、効果的である。暗唱を取り入れることも有効である。 ・教科書本文の内容理解において、自分の力で読み取る力を向上させる。設問を工夫したり、読み取る時間を制限したりして、時間内に正確に内容を把握できるようにする。また、生徒同士で教えあいの機会を設け、授業内容がしっかりと理解できるようにしたい。
書くこと	○正答率は県平均を10.5ポイント、市平均を7.2ポイント上回っている。 ○「対話の流れに合った英文を書く」、「与えられた情報に基いて、3単現の肯定文を正確に書く」や「まとまった内容で自己紹介を書く」の正答率は軒並み高い。 ●「単語の並べかえによる英作文」に関しては、県平均を上回っているものの、どんな文法事項においても正確に書ける力をつけていけるとよい。	・既習の文法事項を使い、簡単な英文を書く活動を取り入れる。 ・英語の語順や文法のきまりをしっかりと理解させることで、英作文を正しく書ける力をつける。 ・英作文については個人差があるので、ALTやTTの時間を有効に使う。 ・タブレットをより良く使う。最終的には、生徒が自分で正しく書ける必要があるので、使えるフレーズとして様々な表現が定着するような使い方を指導する。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○本校の肯定的回答割合が9割を大きく上回っている項目は、
 「家で、学校の宿題をしている」
 「学校の宿題の量はちょうどよいと思う」
 「学校の宿題は、自分のためになっている」
 「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」
 「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」
 「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」
 「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」
 「授業を集中して受けている」
 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」
 「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのかまりなどを決めていと思う」
 「学校のかまりを守っている」
 「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」
 「毎日、朝食を食べている」
 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」
 「人と話すことは楽しい」「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」
 ○「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的回答は県平均より15.2ポイント、市平均より11.5ポイント上回っている。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は県平均より13.7ポイント、市平均より9.8ポイント上回っている。主体的に学習に取り組み、学習内容の定着と向上を図ろうとする意欲が見られる。
 ○「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答は県平均より9.3ポイント、市平均より7.1ポイント上回っている。集団の中で、自己肯定感をもって生活することができる。
 ●「毎日の生活が充実していると感じている」の肯定的回答は県平均より2.5ポイント、市平均より2.6ポイント下回っている。毎日の目標をもたせ、達成感のある生活を心がけさせたい。
 ●「家でのきまりや約束を守っている」の肯定的割合は県平均より3ポイント、市平均より3ポイント下回っている。規範意識を高めた生活について家庭と連携して指導していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	①基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ②主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善 ③個に応じたきめ細やかな指導の充実	①質問4「家で、学校の授業の復習をしている」では市の平均を5.5ポイント上回っている。このことから生徒たちが授業の内容を確実に定着させようとしていることがわかる。 ②質問25「グループ活動への参加」では市の平均を2.8ポイント上回っている。また、質問27「友達との話し合い活動」では市の平均を4.9ポイント上回っている。このことから生徒たちが主体的に対話活動を行っていることがわかる。 ③質問38「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」では市の平均を1.5ポイント上回っている。このことから質問しやすい雰囲気をつ心がけ、生徒たちへの個別の支援を行っていることがわかる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問52「自分には、よいところがある」では市の平均を1ポイント下回っている。このことから自分の適性や能力を理解し、自信をもって活動に取り組ませることが求められる。	生徒の自己理解を促進し身に付けた知識や技能を生かした活動の充実。	学級活動や学校行事を通して他者との関わりの中で自己理解を高め、自信をもって自分の考えを発表したり、活動のに取り組んだりできる環境をつくる。